

Course number		U-LAS05 20021 SJ23					
Course title (and course title in English)		地理学基礎ゼミナールII（作図） Introductory Seminar on Geography II (Methods for Mapping)			Instructor's name, job title, and department of affiliation		Part-time Lecturer, ANDOU TETSUROU
Group		Humanities and Social Sciences		Field(Classification)		Regions and Cultures(Issues)	
Language of instruction		Japanese		Old group		Group A	Number of credits 2
Number of weekly time blocks		1	Class style		seminar (Face-to-face course)		Year/semesters 2024・First semester
Days and periods		Wed.2		Target year		All students	Eligible students For all majors
[Overview and purpose of the course]							
テーマ：主題図を描いて考える。 地図は地理学の基本的な研究対象であり、また研究方法でもある。このゼミナールでは、主題図をめぐるさまざまな作業と討論を通して、地図に対する理解を深め、受講生の研究活動における地図利用の可能性をひろげる。あわせて社会生活において的確に主題図を活用する能力を養成する。							
[Course objectives]							
地図にとっての「よいデザイン」を踏まえた、主題図の描き方を習得する。 地理学の基本的な方法である、主題図を用いて考えることと、主題図を用いて説明することに習熟する。 ディスカッションする力をつける。							
[Course schedule and contents]							
1．地図のデザイン：さまざまな地図表現（主題図、一般図、絵図、デジタル地図など） 2．主題図を読む：小・中学校や高校で使っていた地図帳に掲載された主題図 3．地図の「よいデザイン」を考える：書籍・パンフレット・Webページなどで気に入った地図表現の発表 4．主題図の基礎：よい主題図とはどのようなものか？（論文から主題図を探す） 5．作図の準備：道具に慣れる 6～9．統計を用いた作図と議論（1）～（4）：記号図、グラフ図、流線図、コロプレスマップ、等値線図など 10～11．パソコンでの作図と議論（1）～（2）：描画ソフトや地図ソフトを用いた作図 12～14．テーマを決めて作図する：各人の作品の発表・討論会 15．フィードバック（定期試験は行わず、その次の週に実施）							
[Course requirements]							
地理学関係の講義科目（種類は問わない）をあわせて履修することが望ましい。 なお、地形図等の読図については「地理学基礎ゼミナール（読図）」が開かれている。また、地理情報システム（GIS）については「地理学基礎ゼミナール（地理情報）」が開かれている。							
<div>-----</div> <div>Continue to 地理学基礎ゼミナールII（作図）(2)</div>							

地理学基礎ゼミナールII（作図）(2)

[Evaluation methods and policy]

課題（70%）とワークシート・コメントカード（30%）で評価する。また成績評価は出席が前提となる。作図の方法やデザイン、コメントの内容などを到達目標に照らして評価する。

[Textbooks]

Not used

適宜、プリントを配布する。

[References, etc.]

（References, etc.）

浮田典良・森三紀『地図表現ガイドブック 主題図作成の原理と応用』（ナカニシヤ出版、2013（初版第4刷、初版第1刷は2004））

[Study outside of class (preparation and review)]

課題の中には授業時間内に作業が終わらない場合があるが、次回までの宿題となる。また作業のための準備に関する指示が毎回、提示され、それを行って授業に臨むことが求められる。

[Other information (office hours, etc.)]

ゼミナール形式で行うことから、毎回出席できることを前提とする。それは、自らの作業・発表だけでなく、他の受講生の作業を見たり、発表を聞いて討論したりすることが、ゼミナールの重要な過程となるからである。

なお受講希望者が20名を越えた場合には、教室の収容人数の関係で、履修人数制限を行うこととなります。